

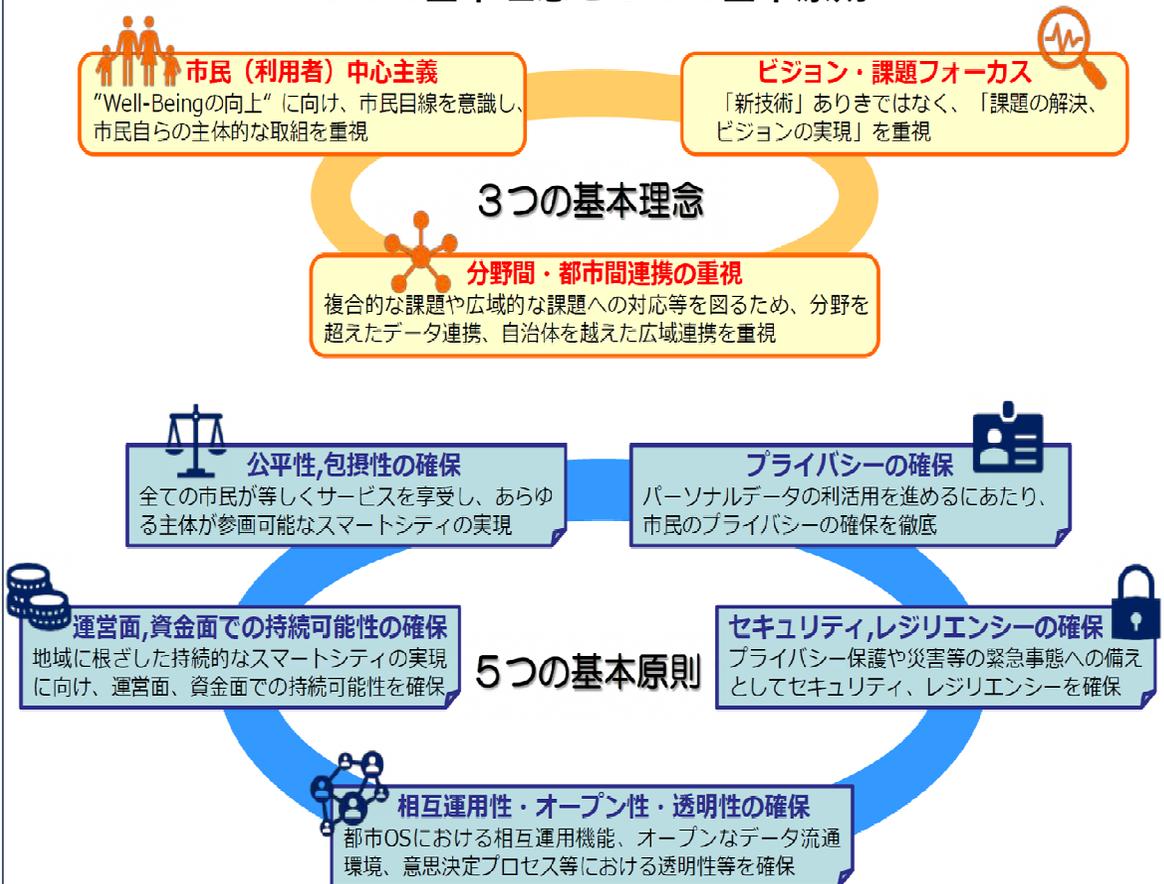
スマートシティとは

スマートシティの定義

スマートシティは地域や解決すべき課題等によって様々ですが、大くりに定義するとすれば、

① 3つの基本理念、5つの基本原則に基づき、②ICT等の新技術や官民各種のデータを活用した市民一人一人に寄り添ったサービスの提供や、各種分野におけるマネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化等により、③都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける④持続可能な都市や地域であり、Society5.0の先行的な実現の場。

3つの基本理念と5つの基本原則



※内閣府：スマートシティガイドブック(2021.04 ver.1.00)

○用語説明

※Society5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く、新たな社会を指すものです。内閣府 第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

※Well-being (ウェル・ビーイング)

住民の幸福感や暮らしやすさを表します。現在、国は住民の幸福感と暮らしやすさを測る指標として、LWC指標(リバブルウェル・ビーイング指標)の計測ツールや活用法を公表しており、今後更に住民の視点に立った都市や地域の分析が可能となることが期待されます。

スマートシティに取り組む意義・必要性

–我が国の都市・地域においては、そこで暮らす（訪れる）人にとって、安心して働ける、子育てができる、安心してくらすことができる魅力的な地域づくりを進めておられることと認識しております。

しかしながら、高齢化の急速な進展、東京一極集中と地方の衰退、多発する大規模災害、新たな感染症リスクなど様々な社会課題に直面しており、魅力的な地域づくりを進める上で、これらの社会課題が重くのしかかっているのではないのでしょうか。

–他方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大も背景に、e-コマースの拡大やテレワークの進展など市民生活や経済活動などの各場面において急速なデジタル化が進行しております。

こうした新技術や各種データを活用した新たな潮流は、今後ますます深刻化することが懸念される各種の社会課題の解決を図る上で、新たな光をもたらす可能性を有しております。

- ✓ 健康・医療、観光分野等における個人特性に応じたサービスの高度化
- ✓ 防災等におけるリアルタイムデータに基づく即応性の向上
- ✓ 行政分野等における業務・プロセス・手続き等の効率化
- ✓ 交通、エネルギー分野等におけるオペレーションの最適化 等

例えば、東京一極集中を背景とした地域間格差の拡大は、地方部においては極めて深刻な課題です。

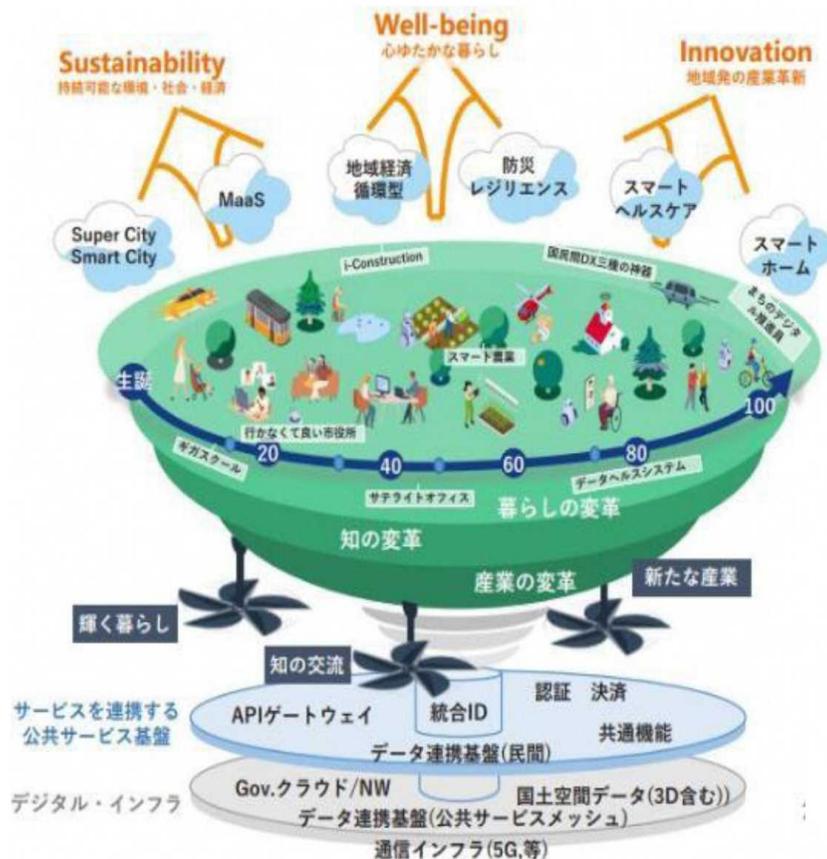
一方で、今般の新型コロナ危機を契機に、市民の生活スタイルやビジネススタイルが大きく変わり、オンライン化を前提に一部には地方移住の動きも見られるところです。

この機を逃すことなく、データや新技術を駆使しつつ、豊かな自然環境のもと質の高い生活を享受することのできる地方の再生、「スマート・ローカル」に取り組むことで、地域間格差の是正という社会課題の解決に大きく貢献するのではないのでしょうか。

スマートシティに取り組む意義・必要性

デジタル田園都市国家構想への期待

国がスマートシティの動きを加速させる更に壮大な構想を発表



概要

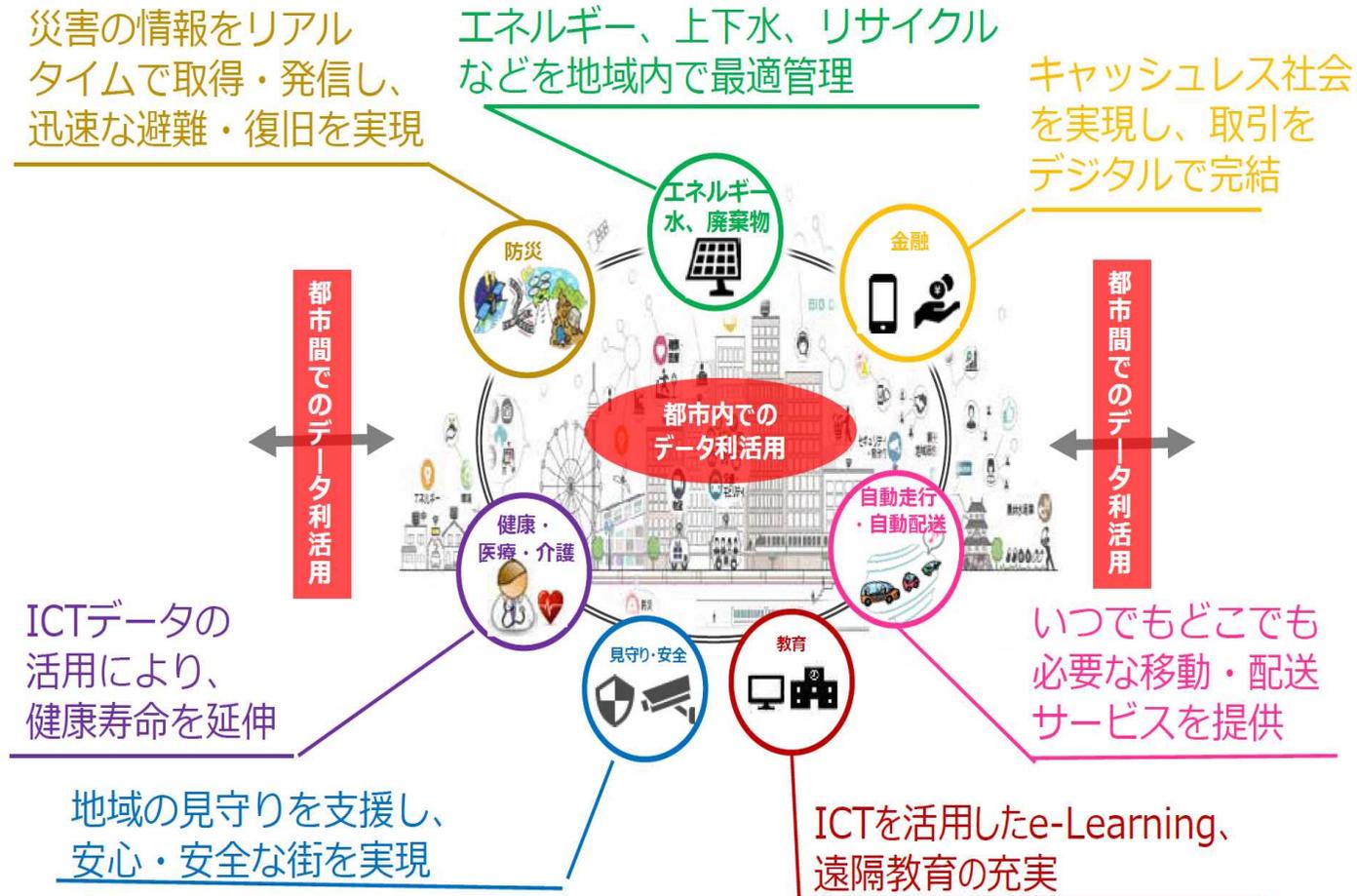
- デジタル田園都市国家構想は、国が2021年に発表した「デジタル実装を通じて地方が抱える課題を解決し、心豊かな暮らしを実現する」という構想
- 国はデジタルの実装により、課題解決に取り組む地方公共団体数を2024年度末までに1000団体にすることを目標としている

予算

- デジタル田園都市国家構想推進交付金
⇒総額200億円(令和3年度補正予算額)
 - TYPE1「優良なモデル・サービスを活用した取り組み」：上限1億円
 - TYPE2・3「データ連携基盤を活用した、複数サービスの実装を伴う取り組み」：上限2億円、上限6億円
- ※TYPE3は早期のサービス実装が要件

スマートシティの効果

- ・分野横断的に様々なデータを取得・利活用し、総合的なサービスの向上が期待されます。
- ・さらに、多都市・多分野に跨り産官学・市民が関わることで、新たな枠組みによる課題解決が期待されます。



※内閣府：スマートシティガイドブック(2021.04 ver.1.00)

これからのスマートシティ

これまでのスマートシティは環境を主軸としたものが多かったが、
現在はまちの魅力強化の視点が重視されている

【低炭素化社会】

マイナス面を削減する戦略

【CO2排出の軽減】

- ・ 人類の持続可能性からの要請として、都市の低炭素化が必須

【再生可能エネルギー + 省エネルギー】

- ・ 国民一人一人のエネルギー選択と省エネを実現することが最重要

インフラ整備

ルール・法整備

【魅力の強化】

プラス面を創出する戦略

【市民、企業、投資、旅行者の目線に立って魅力を創出】

- ・ 市民から見て、“**住みたい都市**”か？
(医療・教育・居住環境 等)
- ・ 企業から見て、“**立地したい都市**”か？
(人材確保、資源確保 等)
- ・ 旅行者から見て、“**訪ねたい都市**”か？

デジタル活用

市民の参加



バルセロナ



会津若松

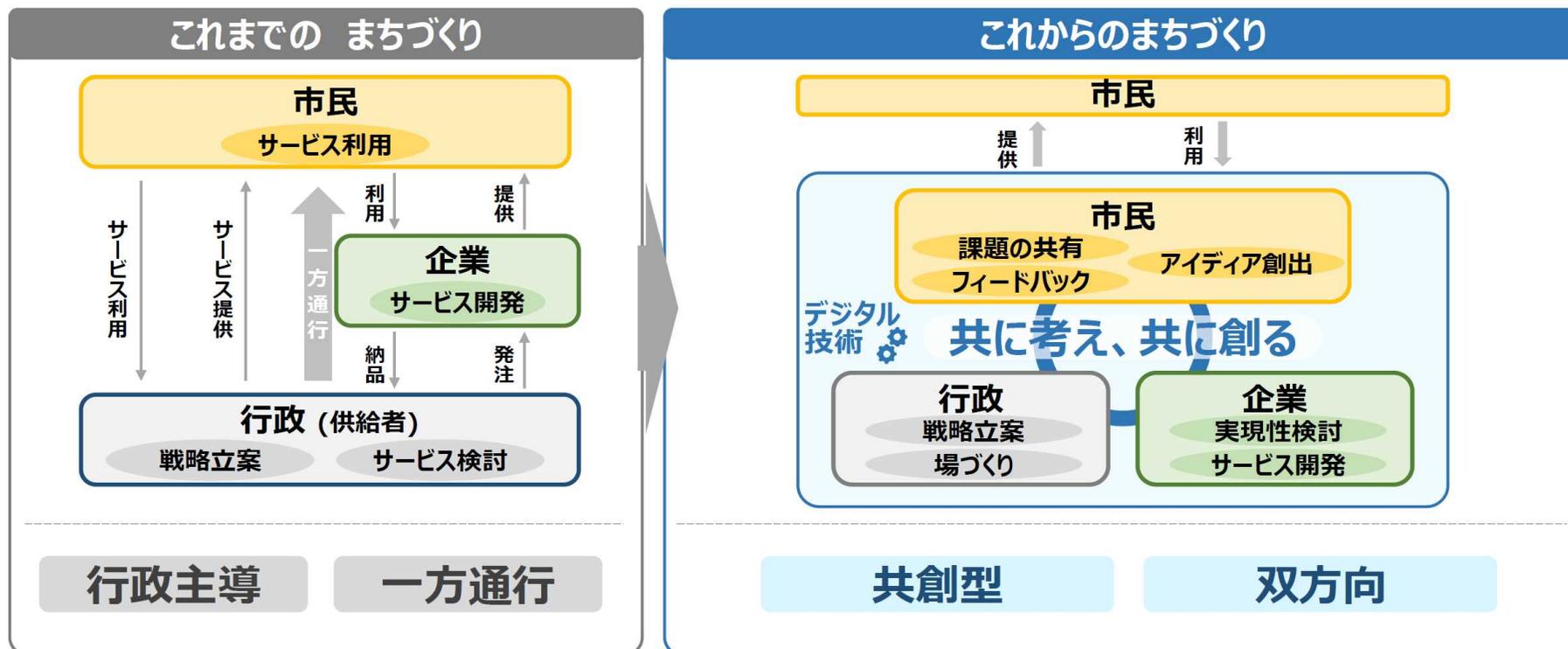
※
定義

ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）の高度化により都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域であり、Society 5.0の先行的な実現の場

⇒デジタル技術活用し、市民の生活の質(QOL)を向上させるまち

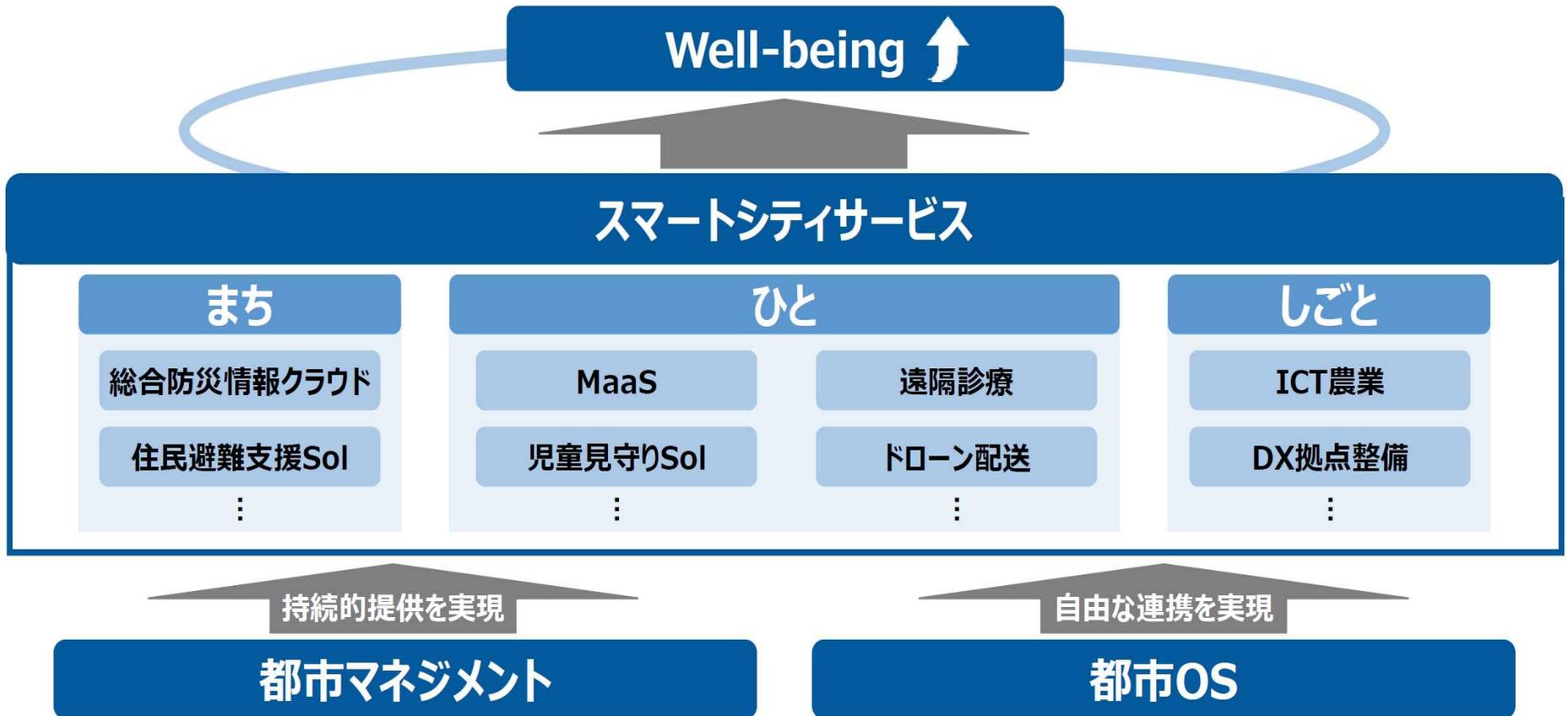
市民の生活の質を高めるまちづくり

多様化する市民のニーズに応え、みんなが幸せに暮らすまちを創るためには、行政主導の画一的なまちづくりではなく、市民と共に考え、共に創るまちづくりが必要



日本のスマートシティモデル

Well-beingに影響を与える課題をスマートシティサービスの実装を通じて解決し、都市OSと都市マネジメントでその取組みをサポート・加速させる



スマートシティの構成要素例

